

イノウエグループ売上高250億円へばく進 新中計、倉庫保有やDX加工管理

特殊金属・ステンレス商社のイノウエ(東京都千代田区、井上浩樹社長)は、2027年3月期から30年3月期にかけての4カ年の「イノウエGR(グループ)中期経営計画」を策定し、施策実行を進めている。グループの売上高250億円の実現を目標、今後はファブレスの商社・コンサル機能だけでなく、自社倉庫などの保有や、DXを用いての加工管理伸長を目指す。AIなどを活用して顧客、調達先とのシナジーを発現していく「イノウエDXサプライチェーンマネジメント」(ID-SCM)を中心に取り組んでいく。

井上社長は「売上高250億円は現在の2倍近く。チャレンジングな目標だが、新中計によってやるべきことを整理・明確化して取り組んでいく」と語る。売上規模は26年3月期にグループ売上高約140億円を達成した。イノウエはエネルギー分野などの商売に強い竹本(神戸市)も含め、加速するグループ規模拡大に応じて、管理部門をホールディングスに移管する体制を築き、少数精鋭で専門性の高い営業社員は経営マインドを醸成し、独立採算で分社化していく。健康管理や経営ノウハウなどで外部専門家のサポートをいっそう利活用する。

利益の源泉となる営業のプロフェッショナルを継続的に育成し、業績の見方・考え方や経営について社員が主体的に学ぶ「塾」もより内容を多角化させて行う。井上社長は今期で社長就任10年目になる。当時はグループ売上高が約30億円と現在の4分の1以下だったが、あっという間に成長した。ステンレス業界で需要減が叫ばれるなか、イノウエは成長を止めない。